

ニューフェイスコーナー

開院のご挨拶

山口市医師会 ながい眼科

永井 智彦

このたび2024年5月に山口市大内にながい眼科を開院いたしました。ここに謹んでご報告申し上げますとともに、開院に際し多大なるご支援とご厚情を賜りましたみなさまに心よりお礼申し上げます。

私は湯田小学校、湯田中学校、山口高校、山口大学卒業（2007年、平成19年卒）と、地元山口で過ごしてまいりました。学生時代は硬式庭球部に所属し、医師となってからは大学病院において主に緑内障の専門外来を担当させていただきました。これまでの手術加療や診療に携わる中で培った経験をもとに、今後もこの地に根ざし、地域の皆さまの眼の健康を守る一助となるべく努めてまいります。

糖尿病などの全身疾患に伴う眼合併症の診療にあたっては、内科の先生方をはじめとした他科の先生方との密接な連携が欠かせません。かつては糖尿病網膜症の精査には点眼による散瞳が必須であり、両眼散瞳による数時間の視力低下や羞明のため車の運転が困難となるなど患者様にとって受診の障壁がございました。しかし近年、広角眼底カメラの普及により、散瞳を行わずともある程度の眼底評価が可能となり、糖尿病網膜症の精査目的であれば自家用車での来院が可能となっております（ただし病状により散瞳検査を要する場合や、高額のため機器の未導入施設もございます）。

運転制限などの理由で眼科から足が遠のいている患者様がいらっしゃいましたら、ぜひお近くの眼科へのご相談をお勧めいただければ幸甚に存じます。

また、緑内障に関連する禁忌薬につきまして、処方時にご留意いただく機会も多いかと存じます。抗コリン薬などが禁忌となる病型は閉塞隅角緑内障又は閉塞隅角の症例であり、開放隅角緑内障であれば抗コリン薬は使用可能です（なお、ステロイド薬は病型を問わず眼圧上昇のリスクがあります）。実際には緑内障患者の9割以上が開放隅角であり、多くの症例では問題ございませんが、閉塞隅角の方も一定数おられるため、慎重な確認が望まれます。閉塞隅角型緑内障発作を起こしやすい方の患者像として、高齢であり（白内障が進行、膨隆し隅角を圧迫している）若年時は裸眼視力が良かった（遠視の）小柄な（眼軸長が短い）女性（男性のリスク比0.71）といった傾向が挙げられます。

一般に、両眼の白内障手術を終えられた方であれば特殊な症例を除き開放隅角となっておりますので、抗コリン薬の使用は問題ないと考えて差し支えございません。ただし、片眼のみ手術を受けておられる方や、手術歴や左右を正確に記憶されていない方が意外にも少なくありません。また両眼ともレーザー虹彩切開術後であれば、切開孔が閉塞していないかぎり抗コリン薬の投与は問題ございません。なお「眼科でレーザー治療歴あり」との自己申告のみでは、網膜光凝固術と混同されている場合もございますので注意が必要です。

閉塞隅角の方であれば、通常は眼科受診時に説明・注意喚起やレーザー虹彩切開術、白内障手術などの対応を受けていることも少なくありません。緑内障を指摘されている患者様ではなく、実はむしろ、若いころから裸眼でよく見えており眼

科と縁のなかった眼科受診歴のない高齢の方のほうが比べるとリスクが高い印象です。

- ・両眼の白内障手術後、レーザー虹彩切開術後は抗コリン薬投与可能。
- ・眼科から閉塞隅角、緑内障禁忌薬などの説明があった場合は要注意。

日本眼科学会では、緑内障の病型を明記できる「緑内障連絡カード」を推奨しております。また隅角の開放・閉塞の判断はスリットランプによる前眼部検査でほとんどの症例において可能です。判断に迷われる場合は眼科への受診を促していただければ幸いです。

ながい眼科では、白内障・緑内障・翼状片の日帰り手術をはじめ、緑内障及び網膜裂孔に対するレーザー治療、糖尿病網膜症の精査、健診後の精査、眼鏡・コンタクトレンズ関連、ドライアイ、アレルギー性結膜炎など、幅広く診療を行っております。諸先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、先生方のますますのご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

医療機関・薬局(薬剤師)へ	
当患者様は、緑内障の治療(経過観察)中です。薬剤処方、検査、手術の際には以下の点にご注意願います。なお、緑内障の病型は変化することがあります。	
●緑内障の病型	●緑内障禁忌薬の使用について
<input type="checkbox"/> 開放隅角	<input type="checkbox"/> 使用制限はありません
<input type="checkbox"/> 閉塞隅角(狭隅角を含む)	<input type="checkbox"/> 使用をお控えください
●虹彩切開術または白内障手術	
<input type="checkbox"/> 済 <input type="checkbox"/> 未	
なお、ステロイド薬は緑内障の病型にかかわらず、眼圧上昇の危険があります。ステロイド薬を使用する場合は、定期的な眼科健診が必要です。	
参考 緑内障禁忌の記載がある薬剤	
精神・神経治療薬(抗不安薬等)	
中枢神経治療薬(抗てんかん薬・抗パーキンソン薬)	
消化性潰瘍治療薬(鎮痙剤)	
抗ヒスタミン剤	
循環器系治療薬	
排尿障害治療薬	
気管支拡張剤	

緑内障連絡カード

